

飯舘村

放射能と帰村

2013年/119分 監督：土井敏邦
 題字：菅原文太 写真撮影：森住卓
 配給：浦安ドキュメンタリーオフィス
<http://doi-toshikuni.net/j/iitate2/img/title-xs.jpg>

2014年 **11月8日(土)**

10時～12時 (9時30分開場)

会場 仙台弁護士会館 4F ホール

仙台市青葉区一番町 2-9-18 晩翠通り沿い

参加費 500円

★当日午後1時半から同会場で、「みやぎアクション秋のつどい 原発のない未来を子ども達へ！」(講演 井戸謙一さん、報告 吉澤正巳さん・阿部美紀子さん)も行われますので、こちらにも是非ご参加ください。

■主催 「女川原発の再稼働を許さない！
 2014 みやぎアクション」

<http://dkazenokai.blog.fc2.com/>

■お問合せ

Tel/fax 022-373-7000 (篠原)

E-mail hag07314@nifty.ne.jp (館脇)



“故郷喪失”に苦悩し、葛藤する村人たちの1年間の記録

村で子どもたちと安心して暮らせますか？

原発から30キロ以上も離れていながら、風向きと降雪・降雨のために大量の放射能に汚染され、「全村避難」を余儀なくされた福島県・飯舘村。酪農の生業を失い、家族離散に追い込まれた二つの家族の「その後」の生活と、故郷や家族への思いを描きながら、原発事故がもたらした“故郷喪失”の深刻な傷痕をあぶり出す。避難までの2、3ヵ月間に及ぶ放射能被曝の不安、とりわけ幼い子どもたちへの影響に若い親たちは怯え苦しみ続けて

いる。一方、政府は村民の帰村と村の復興をめざし、2011年末から「除染」効果の実験事業を開始した。しかしその効果は「子どもたちが安心して暮らせる」レベルにはほど遠い。村人の中から、数千億円にも及ぶ莫大な費用のかける除染で、ほんとうに帰村できるのかという疑問や不安、不信の声が噴出する。「帰りたい。しかし帰れないのでは？ ではどうする？」——2年に及ぶ避難生活の中で、飯舘村の村人たちの葛藤と苦悩は続く。

